令和８年４月２日

各都道府県産婦人科医会会長　殿

公益社団法人日本産婦人科医会
会　　長　　石渡　　勇
医業推進部会
副　会　長　　中井　章人
担当常務理事　　福嶋恒太郎
担当常務理事　　小林　　浩
担当常務理事　　宮﨑亮一郎

分娩取扱継続に必要な出産費用調査(2026年)への協力依頼

謹啓　みなさまには平素より本会の活動にご協力いただき御礼を申し上げます。

さて、ご承知のとおり、社会保障審議会医療保険部会で出産費用の支援のあり方に関する議論が進められております。本会としては出産費用の保険化に強く反対する立場を堅持しておりますが、遺憾ながら、具体的な制度設計に向けた法改正等の動きが現実味を帯びてまいりました。引き続き反対の主張を継続しつつも、万一制度設計の段階に至った際に、周産期医療体制、とりわけ一次施設の持続可能性を確保することが極めて重要であると考えております。

つきましては、妊婦および医療機関の双方が将来にわたり安心・安全に分娩を継続できるよう、現場の視点から必要とされる出産費用の水準を把握し、現場の実態に即した正当な対価を主張するために、実態調査を実施することといたしました。本調査は今後医療機関が安心・安全な医療を提供し続けるために必要な「真のコスト」を根拠として示すために必要と考えています。

説得力のある結果とするためには高い回答率が必要です。貴職におかれましては、貴会会員（分娩取扱施設）に積極的にご回答いただくよう、周知ならびに呼びかけについてご高配賜りますようお願いいたします。

謹白

添付
分娩取扱継続に必要な出産費用調査(2026年)依頼状
分娩取扱継続に必要な出産費用調査(2026年)調査票
貴都道府県送付施設一覧

日産婦医会発第396号
令和８年３月19日

《施設名》
産婦人科責任者 殿

公益社団法人日本産婦人科医会
会　　長　　石渡　勇
医業推進部会
副　会　長　　中井　章人
担当常務理事　　福嶋恒太郎
担当常務理事　　小林　浩
担当常務理事　　宮﨑亮一郎

分娩取扱継続に必要な出産費用調査(2026年)への協力依頼

謹啓　みなさまには平素より本会の活動にご協力いただき御礼を申し上げます。

さて、ご承知のとおり、社会保障審議会医療保険部会で出産費用の支援のあり方に関する議論が進められております。本会としては出産費用の保険化に強く反対する立場を堅持しておりますが、遺憾ながら、具体的な制度設計に向けた法改正等の動きが現実味を帯びてまいりました。引き続き反対の主張を継続しつつも、万一制度設計の段階に至った際に、周産期医療体制、とりわけ一次施設の持続可能性を確保することが極めて重要であると考えております。

つきましては、妊婦および医療機関の双方が将来にわたり安心・安全に分娩を継続できるよう、現場の視点から必要とされる出産費用の水準を把握し、現場の実態に即した正当な対価を主張するために、実態調査を実施することといたしました。今後医療機関が安心・安全な医療を提供し続けるために必要な「真のコスト」を根拠として示すため、本調査へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

ご多用中のところ、みなさまには大変お手数をかけて恐縮ですが、何卒ご協力いただきますようお願い申し上げます。集計の都合上、ご回答は令和８年４月24日までに、**Web フォームから入力**ください。Web フォームへの回答は、下部の二次元コードをスマートフォンで読み取ることでアクセスできます。また、コンピュータを用いて医会ホームページ【ホーム ＞ 産婦人科医会のこと ＞ 部会別資料 ＞ 医業推進部会】からアクセスすることも可能です。Web フォームは途中保存ができませんことをご了承願います。インターネットでの回答が困難な場合には調査票記載の FAX(03-6862-5509)まで送り状なしでご送信お願いいたします。回答に際しては、**下記の施設番号の入力をお願いいたします。**

なお、本調査は本会の倫理委員会の承認を得ており、本アンケート調査結果の公表により個人や施設が特定されることはありません。また、統計的解析以外には利用いたしません。結果は、本会の記者懇談会、学術雑誌等で公表いたします。

謹白

貴施設の施設番号　≪施設番号≫

FAX 返信先：03-6862-5509　　提出期限：令和８年４月 24 日

回答締め切りは、令和８年４月24日(発送後３週間)です。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

お問い合わせ先：公益社団法人日本産婦人科医会事務局　小柳　宛
メール：wkoyanagi@jaog.or.jp

【回答用二次元コード】

なお、本調査は当会の倫理委員会の承認を得ており、本アンケート調査結果の公表により個人や施設が特定されることはありません。また、統計的解析以外には利用いたしません。結果は、当医会の記者懇談会、学術雑誌等で公表いたします。なお、この調査は、各施設のアンケートへの返信をもってこの調査に同意したものとみなします。本アンケート調査は、本邦の nation wide の報告として非常に有用なものになると医業推進部は考えております。いままでの会員の先生方にご協力頂きました結果と同様、当医会より本邦の現状として積極的に情報発信していきます。

締め切り：令和８年４月24日　(FAX: 03-6862-5509)

«施設番号»	«施設名»

迅速に集計を行うため、可能な限りWebでの回答にご協力ください。
Web回答フォームは、医会HP【ホーム＞産婦人科医会のこと＞部会別資料＞医業推進部会】から、または右記の二次元コードからアクセス可能です。
FAX利用時(FAX：03-6862-5509)は送付状は付けず、回答記載のある調査票のみご送信ください。

分娩取扱継続に必要な出産費用調査(2026年)

※「➡Q○○へ」とある場合はその先にスキップ、ない場合はそのまま下の設問に進んでください。

現在の分娩取扱い状況についてお伺いします

Q１．産婦人科施設長の回答時のご年齢

（　　）歳

Q２．産婦人科施設長の性別

□ 男性　□ 女性　□ その他　□ 未回答希望

Q３．2026年1月1日時点の分娩取扱い状況

□ 分娩取扱いあり　**➡Q６へ**
□ 分娩取扱いを中止している
□ すでに分娩取扱い中止を決定している

Q４．分娩取扱いの具体的な中止時期　※西暦でご記載ください

（ 20＿＿年 ＿＿ 月）

Q５．分娩取扱いを中止した理由（複数選択可）**➡回答後、自由記載欄(４ページ目)へ**

□ 今後数年程度で保険財源からの現物給付化などの制度変更が予測されるため
□ 自身の体調、年齢
□ 後継者不在
□ 収入減（分娩数減）
□ ランニングコスト（人件費、物品、光熱費など）増
□ 設備施設更新費用等の負担
□ 常勤医師確保困難
□ 非常勤医師（宿日直等の応援）確保困難
□ 助産師、看護師等スタッフ確保困難
□ その他（具体的にご記入ください）

※Q６へスキップした方はこちら

今後の分娩取扱方針についてお伺いします

Q６．貴施設の分娩継続に関する現在の方針をお教えください

□ 原則として分娩取扱を今後数年程度で撤退する方針である
□ 条件が整わなければ今後数年程度で撤退する方針である　**➡Q８(２ページ目)へ**
□ 今後当分の間は原則として分娩取扱を継続する方針である　**➡Q９(２ページ目)へ**

Q7．撤退する方針としている場合の理由、条件と考える項目（複数選択可） **➡回答後、Q9へ**
□ 今後数年程度で保険財源からの現物給付化などの制度変更が予測されるため
□ 自身の体調、年齢
□ 後継者不在
□ 収入減（分娩数減）
□ ランニングコスト（人件費、物品、光熱費など）増
□ 設備施設更新費用等の負担
□ 常勤医師確保困難
□ 非常勤医師（宿日直等の応援）確保困難
□ 助産師、看護師等スタッフ確保困難
□ その他（具体的にご記入ください）

※Q8 へスキップした方はこちら

Q8．分娩を継続するうえで考慮する条件（複数選択可）
□ 今後数年程度で保険財源からの現物給付化などの制度変更が予測されるため
□ 自身の体調、年齢
□ 後継者
□ 収入（分娩数）
□ ランニングコスト（人件費、物品、光熱費など）
□ 設備施設更新費用
□ 常勤医師確保
□ 非常勤医師（宿日直等の応援）確保
□ 助産師、看護師等スタッフ確保
□ その他（具体的にご記入ください）

※Q９へスキップした方はこちら

補助金の有無についてお伺いします
Q９．2024 年度分娩を取扱うことに対して県あるいは市町村独自の補助金を受けた場合にはご記入ください
補助事業名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 年間補助額（2024年度）：＿＿＿＿＿＿＿＿万円
経営状態についてお伺いします
Q10．貴施設の分娩部門の経営状態（2024 年度）に該当するものを選択してください（Q9 に記載の補助金を除く）
□ 黒字（収支差 10%以上）
□ 小幅黒字（収支差 0～10%）
□ 収支均衡（±5%以内）
□ 小幅赤字（収支差 0～△10%）
□ 赤字（収支差△10%以上）

正常分娩の保険適用（現物給付化）についてお伺いします

Q11. 正常分娩の保険適用（現物給付化）についての貴施設のお考え（1つのみ）

□ 全国一律単価での保険適用なら賛成
□ 全国一律単価での保険適用には反対
□ 地域加算・機能加算を含めた適切な単価設定なら賛成
□ 保険化はせず、現行の出産育児一時金を増額し対応すべきである
□ 選定療養等の整備や現金給付も併用し自由診療が成り立つ制度であれば賛成
□ その他（具体的にご記入ください）

現在の出産費用についてお伺いします

Q12. 令和8年1月現在、平日に陣発、破水等で入院し、同日経腟分娩（分娩、産褥経過、新生児に異常なし。差額室料、無痛分娩、特別食、エステ等アメニティに係る費用なし）となった場合の入院期間と直接支払制度専用請求書に記載の金額を千円単位でご記入ください。標準的な目安の金額で結構です。なお、無痛分娩は実施していない場合でご回答ください。

入院期間　（　　）日

項　目	百万	十万	万	千				
①入院料					0	0	0	円
②分娩料					0	0	0	
③新生児管理保育料					0	0	0	
④検査薬剤料					0	0	0	
⑤処置手当料					0	0	0	
⑥妊婦合計負担額 ※①～⑤の合計＋室料差額＋その他（特別食やエステ等のアメニティを含む金額）とします。					0	0	0	

今後正常分娩（経腟分娩）を継続して取り扱うために必要と推定する出産費用の金額についてお伺いします

Q13. 現在の出産費用を基に、今後の人件費、施設維持費、24時間体制、安全対策、設備更新等を考慮し、持続可能な水準で近いと考えられる金額をお選びください。自治体から補助を受けている施設（設問9参照）におかれましては、その補助がなかった場合でお考えください。なお、無痛分娩は実施していない場合でご回答ください。

参考：①入院料、②分娩料、③新生児管理保育料、④検査薬剤料、⑤処置手当料

1）①～⑤の合計に相当する金額

□ 50万円　□ 60万円　□ 70万円　□ 80万円　□ 90万円
□ 100万円　□ 110万円　□ 120万円　□ 130万円　□ 140万円以上

2）①～⑤の合計＋室料差額＋その他（特別食やエステ等のアメニティを含む金額）

□ 50万円　□ 60万円　□ 70万円　□ 80万円　□ 90万円
□ 100万円　□ 110万円　□ 120万円　□ 130万円　□ 140万円以上

※自由記載欄へスキップした方はこちら

自由記載欄（保険給付化などに対してのご意見をお書きください）

ご協力ありがとうございました